

鹿島木材株式会社

事業実施テーマ

FSC認証製品の生産体制の構築

企業紹介



杉本 英集成材事業部工場長と高林秀行代表取締役

天竜杉や天竜桧の木材加工・販売の老舗 近年は建築造作用集成材の製造販売も

当社は、木材販売業を主力事業として昭和9年（1934年）に高林材木店として創業。その後、昭和21年（1946年）に鹿島（かじま）木材株式会社（資本金10,000千円）を設立し、天竜杉※1や天竜桧※2等の地元材を中心に、地元住宅販売会社や工務店に木材を販売している。

また、平成25年（2013年）には集成材事業部を立ち上げ、関東圏・名古屋・大阪地区などの都市圏や静岡県西部地域で建設されるマンション・学校・幼稚園・高齢者施設等で使用する造作用集成材の製造・販売を開始。

そして、同年10月には、静岡県下唯一となる造作用集成材のJAS認定工場となった。

※1 天竜杉

美しい木目と心地よい肌触りが人気の要因で、水湿への耐久性も高いことから、日本の風土に合った住宅用木材。

※2 天竜桧

高級材として広く知られ、強度があり色艶もよく、独特の芳香がある。また、天竜桧は油分が多いため、水に強く腐りにくく、虫がつきにくい。

取り組みの経緯



集成材事業部の工場内

21万haの人工林が木材として利用可能 FSC森林認証を受けた木材の需要が増加

静岡県が平成27年度に発表した「静岡県森林・林業統計要覧」によると、民有林の人工林面積は約24万ha、そのうち約9割にあたる21万haが林齢41年生以上で、木材として積極的に利用を進める時期を迎えているとある。

そして、当社が所在する浜松市では、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックの施設に“FSC森林認証※を受けた天竜材の利用”を国に要望している。

このような背景下、県内唯一の造作用集成材のJAS認定工場で、既にFSC森林認証を取得している当社には、FSC森林認証を受けた木材の調達や木材生産に係る問い合わせが増えてきているが、現行設備の生産性が低いため十分な供給を行うことができず、抜本的な工程改善を進めていくことが急務の課題となっている。

※FSC森林認証

1993年に開始された世界的な森林認証制度で、「森林が適切に管理されているか」を国際統一基準に沿って審査し、その認証を受けた森林から生産された木材や木材製品に認証ラベルを貼り、消費者の信頼性や購買力を高めている。

▶ 会社概要

- 社 名：鹿島木材株式会社
- 代 表 者 名：代表取締役 高林秀行
- 所 在 地：〒431-3312 浜松市天竜区二俣町南鹿島63
- 取 材 地：浜松市浜北区中瀬2700(集成材事業部)
- 設 立 年 月：1934年創業 1946年法人化
- 資 本 金：10,000千円
- T E L：053-926-1121 053-588-7247(集成材事業部)
- U R L：<http://www.kajima-mokuzai.com/index.html>



▶ 取り組みの内容



今回導入したプレーナサンダー

プレーナサンダーと反転装置の導入 仕上加工工程での作業改善を実現

抜本的な改善が求められている製造工程の中でも、特に仕上加工工程の能力不足が著しく、現行設備でのプレーナ（粗削り）仕上げは加工幅600mmが限界で、600mm超の製品加工の際にはサンダー仕上げ（プレーナ加工の後工程で低粒子のサンドペーパーで研磨する作業。サンドペーパーの交換や部材の反転に係る人員が必要）を繰り返すことで“仕様通りの板厚”に加工していた。

そこで、「FSC認証製品の生産体制の構築」をテーマとして本事業に取り組み、プレーナサンダー（プレーナ+サンダー2連）及び部材反転装置を導入し、“サンドペーパー交換作業の省略”と“部材反転時の作業時間の短縮”を目指した。

具体的には、まずプレーナサンダーの導入により、1回の部材投入で「片面プレーナ→粗サンダー→仕上サンダー」の加工が可能となり、サンドペーパー交換が不要となった。また、部材反転装置の導入により、これまで2名を要していた反転作業が1名で実施可能となった。

▶ 結 果



FSC森林認証材により施工した地元中学校

今後も需要が見込まれるFSC森林認証材 地方行政へのプレゼンを積極的に展開

本事業の実施により懸案であった仕上加工工程の作業改善がなされ、段取り時間を含めた作業時間は従来の半分（240分→120分）に短縮することができた。

その結果、FSC森林認証材加工に際しての受注余力が生まれ、増加傾向にある需要（FSC森林認証を受けた木材の調達並びに木材生産）に対する供給が可能となった。

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックの象徴となる新国立競技場は、“木と緑のスタジアム”をコンセプトとしていることから、今後も公共施設や環境意識の高い民間施設においてはFSC森林認証材の使用が確実に増加することと思われる。

当社では既に浜松市内の中学校の窓枠材や間仕切りなどにFSC森林認証材を納入するとともに、浜松市の「浜松地域FSC・CLT※ 利活用推進協議会」にてプレゼンを行うなど、FSC森林認証材の普及に努めている。

※ CLT (Cross Laminated Timber)

直角に交わるように張り合わせる木材（直交集成板）で、厚みのある大きな板で、建築の構造材等に使用される。